

## 課題解決グループ相談会 記録シート

1：指定管理者制度の課題と解決

第2研修室

参加者数：17名（記録2名 オブザーバー1名除く）と田中愛さん

担当：大草秀幸（佐賀県立女性センター・生涯学習センター館長、全国女性会館協議会理事）

：須田和（尼崎市立女性・勤労婦人センター所長、全国女性会館協議会理事）

：平賀圭子（もりおか女性センター〔参画プランニング・いわて〕理事長）

記録：田村幸子（佐賀県立女性センター企画主任）

野中尚子（佐賀県立女性センター企画員）

### 主な相談内容（箇条書きで）

- ・現在、指定管理制度により運営している施設（受託者：財団・NPO・企業）と直営で運営している施設の両方があるが、直営の施設も近い将来指定管理制度に移行する可能性が大きい。
- ・プロパー職員の占める割合が低いいため、指定管理申請手続きに対応できる人材が限られている。（出向職員・嘱託職員は、異動・3年の期限付き雇用のため）。
- ・職員に専門性を求めながら、職員の多数は雇い止めのため、次期申請時の作業に耐えることができるのか不安がある。
- ・申請内容で大事なものは、予算だけではない。目標を具現化・数値化すること（「みえる化・みせる化」）。数値化しにくいソフト面のアピール方法が大事（事業終了後の追跡調査・全国規模での表彰実績など）。
- ・指定管理者が変わったことにより、職員の雇用が課題となったが、連続性を重視し、雇用を続ける方向で、現在の職員には面談を最優先して1～2年かけて対応した。
- ・前年度の申請書やプレゼンの公開・非公開については地域によってまちまちだが、公開OKであれば、企画立案の参考になる。

### 記録者所感など

同じ指定管理を獲得しようとする立場である、財団やNPO法人側の視点と企業側の視点の両サイドからの意見交換がなされ、有意義な内容だったように思う。

## 課題解決グループ相談会 記録シート

2：女性関連施設における自己評価・外部評価

第3研修室A

参加者数：17名

担当：桜井陽子（横浜市男女共同参画推進協会理事、全国女性会館協議会常任理事）

記録：野中まりこ（佐賀県立女性センター企画員）

### 主な相談内容（箇条書きで）

- ・ 他機関の自己評価の指標はどのようなものがあるか聞きたい。
- ・ 評価シートの客観性について
- ・ 事業評価と調査のちがいについて
- ・ アウトプットに留まらず、アウトカムをどう打ち出して評価していくか。
- ・ 相談事業に関する評価・満足度とは
- ・ 相談事業の評価は、何のための評価なのか。
- ・ 情報提供（専門図書館）についてどこを評価するのか。（貸し出し数、来館者数、レファレンス等）
- ・ 予算について、受講者ひとり頭の単価をどう考えるか。
- ・ どの時点で追跡調査をかけるといいのか。

### 記録者所感など

講座・相談・情報などの専門ごとの評価について、詳細な話ができる。

他機関がどのようなシステムか、どう評価していくとよいか、などの意見が色々と集まり、短い時間では足りないくらい活発な会となった。

課題解決グループ相談会 記録シート

3：私立施設における公益法人制度改革の影響

第3研修室B

参加者数：3名

担当：大野曜（日本女性学習財団理事長、全国女性会館協議会理事長）

記録：今泉順子（佐賀県立女性センター企画員）

主な相談内容（箇条書きで）

- ・ 収益事業と公益事業のバランスの良い事業展開をどう進めたらいいか。公益法人になるために補助金等の範囲内で公益事業を実施する必要があるのか、自主事業を公益法人として展開するためにどうしたらいいか。
- ・ 貸館事業に対して県から制限される。公益事業としたい貸館で収入を得ることができなくて困っている。  
（土地所有→県、建物→財団）
- ・ 県の外郭団体として公益法人認定を申請したいが、他の外郭団体で指定管理者のところの対応を知りたい。
- ・ 現在持っている「基金」は遊休財産になるので、公益認定の申請前に使ってしまうよう言われた。

記録者所感など

相談というよりは、各施設の現状の説明などが時間の殆どを占めたが、参加者で問題を共有することができただけでも、意義深いものであったと思う。

## 課題解決グループ相談会 記録シート

4：女性関連施設における情報収集・発信（選定基準など）

特別会議室

参加者数：13名

担当：青木玲子（埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネーター、全国女性会館協議会常任理事）

記録：溝上直美（佐賀県立女性センター企画員）

### 主な相談内容（箇条書きで）

- ・ 日常の情報活動について聴きたい。
- ・ 5館あるそれぞれのライブラリーの情報が集約される中、ライブラリーの機能をどのようにまわしていき、情報の大切さを組織の中でどういう位置付けにしていけばよいのか。
- ・ 担当になった個人が独自（他の館からの情報誌を見て）で選んでいるので、組織としての選定を行っていないため、他の館の選定の仕方を知りたい。
- ・ 情報収集に関して事業のかたわら他館の情報誌を見ながら情報を得ているため、意識の積み重ねがないので、情報収集の手段を知りたい。
- ・ 出版ウィークリーやウィメンズブックストアのミニコミなどをチェックして選んでいる。新たに選定基準を見直しているところであるため、皆さんの意見を参考にしたい。
- ・ 開催事業告知の魅力ある発信方法を今より求められているのでどうしているか。
- ・ 女性関連施設の現状、課題、どのように工夫しているのか。
- ・ 女性センターとしてのライブラリーの機能、役割をききたい。
- ・ どうしたら職員の力が上がるのか、何をツールとして収集したらよいのか、あるものをどう活用していけばよいのか。

### 記録者所感など

担当者の皆さんが日々どんなことで悩んだり、考えたりしているのか、参加者の意見を聞いていると、情報交換の場がとても大事なことだと感じた。

ライブラリーとして情報を発信するためには、収集方針がどういう規定（センターの設置目的）の基に決められ、組織的にきちんと了解が得られ、館として認められたものでなければならないということ、収集をしたものをどう活用していくかなど、今後の参考になる意義のあるグループ相談会であった。

課題解決グループ相談会 記録シート

5：DV被害女性など困難な状況にある女性への支援

美術工芸室

参加者数：8人

担当：原健一（佐賀県DV総合対策センター所長）

甲木京子（佐賀県立女性センター事業コーディネーター）

記録：古川るみ子（佐賀県DV総合対策センター）

主な相談内容（箇条書きで）

- ・ 女性センターの相談では、DVに対してどこまで支援できるのか
- ・ 困難な状況にある女性支援について、どのような取り組みをしているのか。どのようなことに配慮しながら実施されているのか
- ・ 行政の立場としての、民間支援団体との連携について

記録者所感など

県、市、民間のいろいろな対場での意見の共有がなされる有効な場となった。